

【 第9回 ACT全国研修会 浜田大会 プログラム 】

2018年11月23日(金)

13:00	受付				
13:30	ウェルカムセッション				
14:30	基調講演 「多職種アウトリーチチームはこれからどこへ行くのか」 講師:伊藤 順一郎(メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ)				
15:50	休憩				
16:10	開催地企画コース	分科会1 (一般向け) ACT入門 ～その歴史や訪問型支援の倫理について～ 梁田 英麿 (S-ACT)	分科会2 (実践向け) 家族に寄り添う訪問支援 鴨川 智江美 田中 真奈美 坂口 遼太 (AI-ACT)	分科会3 (実践向け) 薬物療法に極力頼らない 精神科訪問支援 (ACT-Zeroおかやま)	分科会4 (一般向け) 家族と実践者との対話 ～多職種チームのアウトリーチサービス (訪問支援)がどこでも受けられるようになるために～ 伊藤 順一郎 (メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ) 渡邊 真里子(ちはやACTクリニック) 岡崎 公彦 (岡崎クリニック) 一木 猛 (福岡県精神保健福祉会)
	講演会1 こころと身体と暮らしの 総合診療 ～都市部におけるホームレス 支援の現場から考える～ 熊倉 陽介 (東京大学大学院医学系研究科 精神保健学分野)				
17:30					
18:30	懇親会				

2018年11月24日(土)

9:00	開催地企画コース	分科会5 (実践向け) 訪問で活かせる 認知行動療法① ② 佐藤 さやか (国立精神・神経医療研究センター) 西内絵里沙 (所沢市保健センターアウトリーチ支援チーム) 佐藤朋恵 (国立精神・神経医療研究センター)	分科会6 (実践向け) リハビリプランを 極める① ② 倉知 延章(九州産業大学) 津田 祥子(Q-ACT) 松尾 洋美(Q-ACT) 白石 泰三(Q-ACT北九州)	分科会7 (実践向け) 訪問型支援の流儀を守る ① ② 安里 順子(ACT-K) 横田 季子(ACT-K) 金井 浩一 (相談支援事業所しっぽふぁーれ)	分科会8 (一般向け) ACT-Jがオープンダイアログ から学んだ事 ① ② 伊藤順一郎 (メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ) 浦林 翼(ACT-J) 永井 美早(ACT-J)
	講演会2 地方の小さな町での就労支援 ～IPS個別就労支援との出会い～ 林 輝男 (西川病院)				
10:20					
10:40	講演会3 精神科訪問看護の 量的拡大と質の担保 木戸 芳史 (三重県立看護大学 精神看護学)				
12:00					
12:00	休憩				
13:15	シンポジウム 「地方の小さな町におけるアウトリーチ」 シンポジスト 高橋幸男(エスポアール出雲クリニック) 藤森祥子(訪問看護ステーションよつば) 谷口研一朗(佐賀ACT) 桶田昌平(ACT十勝)				
15:00	クロージングセッション				

基調講演の紹介

「多職種アウトリーチチームは
これからどこへ行くのか」
講師 伊藤 順一郎
(メンタルヘルス診療所しつぽふあーれ)

少子高齢化のなか、限られた財源で、私たちはどのようなサービスを展開することが求められているのでしょうか？精神医療の分野において、精神科病棟の役割は、ごくごく限られたものになるということは、精神医療の進歩という点からも医療経済という点からも人権を尊重する医療を展開するという点からも必然のように思います。

”危機”という事態をいかに小さく乗り越えられるか？精神疾患を持つ人々の”危機”のリスクを小さくするような社会のありようをどのように構築したらいいのか？収容型の精神病院をなくしたトリエステから学んでいることも含めて、これからの精神保健のありようについて問題提起をしてみたいと思います。

シンポジウムの紹介

「地方の小さな町におけるアウトリーチ」

日本のいわゆる「地方」と呼ばれる小さな地域において、精神障がい者の地域支援を実践しているチームや団体の活動について報告して頂き、これからの日本におけるアウトリーチ支援についての可能性や課題についても会場のみなさんと一緒に対話をしていきたいと思っています。

●シンポジスト

- ・高橋幸男
(エスポアール出雲クリニック:島根県出雲市)
- ・藤森祥子
(訪問看護ステーションよつば:広島県竹原市)
- ・谷口研一朗
(さが恵比須メンタルクリニック:佐賀ACT)
- ・桶田昌平
(おおえメンタルクリニックゆう:ACT十勝)

●司会

- ・伊藤順一郎(メンタルヘルス診療所しつぽふあーれ)
- ・内田有彦(こころクリニックせいわ:NACT)

開催地企画コース及び分科会の紹介

講演会1 (一般向け)	「こころと身体と暮らしの総合診療～都市部におけるホームレス支援の現場から考える～」 簡易宿泊所(通称:ドヤ街)における診療や、都市部のホームレス路上巡回相談の経験等を通して、心身の総合的な支援のあり方や、ハウジングファースト(住居支援)、ハームリダクション(健康被害や危険の低減策)などの新しい支援の方策について考えていきましょう。
講演会2 (一般向け)	「地方の小さな町での就労支援～IPS個別就労支援との出会い～」 これからの精神医療・福祉の最大のテーマは、いかに積極的にリハビリ支援にコミット出来るかである。「働く」という人間の営みは、収入を得、人と繋がり、人に求められるなど、リハビリに必要なあらゆる要素を含んでいる。島根県浜田市で実践しているIPS(就労支援)についてご紹介させていただきます。
講演会3 (一般向け)	「精神科訪問看護の量的拡大と質の担保」 近年、精神科訪問看護の提供(利用)は飛躍的に量的拡大を続けています。その一方で、「質の担保」が課題として挙げられることが多くなってきました。これからも利用者に必要とされるサービスとして精神科訪問看護が生き残るために、私たちは何を考えていかなければならないのでしょうか。
分科会1 (一般向け)	「ACT入門～その歴史や訪問型支援の倫理について～」 この分科会では、Assertive Community Treatment (ACT)について、その誕生から現在に至るまでの歴史を振り返ります。その上で、地域で暮らす人を支える訪問型支援の倫理について、参加者の皆さんと対話を重ねたいと思います。
分科会2 (実践向け)	「家族に寄り添う訪問支援」 ※定員30名 当事者を必死で支える家族には夢や希望を語るには程遠く、本人を取り巻く家族が元気でなければ共倒れになり、親亡き後はもちろん心配が尽きません。いくつかの実践事例紹介の後、グループワークで事例をもとに元気の出るアイデアを出し合い、「家族のケアプラン」を一緒に作成し、参加者と一緒に学びあう時間を過ごしましょう。
分科会3 (実践向け)	「薬物療法に極力頼らない精神科訪問支援」 ※定員25名 この分科会では、薬物療法に極力頼らない、支援の方法について参加者の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。
分科会4 (一般向け)	「家族と実践者との対話～多職種チームのアウトリーチサービス(訪問支援)がどこでも受けられるようになるために～」 日本のどこでも多職種アウトリーチが受けられるようにするためには、日本全体でどんな仕組み作りが必要で、誰とどのように協力すればよいのだろうか？ACTを応援する家族やACTの実践者で対話を深め、参加者も交えて今後のヒントを得る機会としたいと思います。
分科会5 (実践向け)	「訪問で活かせる認知行動療法①②」 ※定員30名 ACTチームが訪問時に提供することが望ましい支援としてフィデリティ尺度にも挙げられている認知行動療法の基本を学びます。前半は背景理論や技法の概要、後半はケースの紹介とグループワークを行う予定です。
分科会6 (実践向け)	「リハビリプランを極める①②」 ※定員20名 前半では、ストレングスアセスメントを、後半では、リハビリプランを実際に作成します。1グループ5名の参加者に対し、利用者役1名が入り、グループ内でそれぞれ支援者役を順番にロールプレイで行っていくという研修です。
分科会7 (実践向け)	「訪問型支援の流儀を守る①②」 ※定員25名 この分科会では、訪問型支援において「していいこと」「してはいけないこと」をロールプレイで確認していきます。利用者や家族・支援者のそれぞれの立場を体験し、自分の関わりが相手にどのように伝わっているのかを省察する良い機会になればと考えます。
分科会8 (一般向け)	「ACT-J がオープンダイアログから学んだ事①②」 ACT-J がオープンダイアログから学んだ事を臨床の場で実践するうちに、チームの変化や葛藤が見えてきました。その変化や葛藤を参加者の皆様と対話しながら共有する時間になりたいと思います。その時間の共有から参加者の皆様には、私たちがオープンダイアログから学んだ事を体験的に受け取って頂けると幸いです。